✧調査・研究事業：IT研究会

小規模商業・サービス事業者の生産性向上に効果的なIT活用手法に関する調査・研究

1. 事業の背景・目的

『平成30年版小規模企業白書』によれば、人口が減少し、高齢化が進む中で、小規模事業者において約2/3の事業者が人手不足を感じていると回答しています。しかし、多くの小規模事業者は従業員の採用が難しく、経営者自身の働き方でカバーしている実態が明らかとなりました。さらに、経営者自身も、業務時間の削減を課題として認識しており、半数以上の経営者が売上に直結する業務に注力したいという回答しています。

こうした状況を踏まえ、IT研究会では、間接業務や販売活動をITで効率化すれば、経営者は経営戦略策定やサービスや製品そのものに注力できると考え、「IT活用による生産性向上」を活動テーマとして掲げて、実際の企業への支援も交えながら研究活動を行っています。本年度は、小規模事業者でも普及が進む、キャッシュレス決済やタブレットPOS、SNSなどに着目し、これらに関する文献調査と、その利用実態に関するアンケート、さらに導入事例を土台とした活用方法の検討を軸とした、調査・研究事業を企画し、県協会から採択されました。

2. 実施内容

(1) 研究会に委員会を編成

当研究会を中心とした19名の県協会員で委員会を編成し、文献調査、アンケート、事例の3チームに分かれて調査・研究事業を開始しました。

(2) 文献調査を実施

国内の小規模商業・サービス事業者の現状と、経営上の課題とIT活用の現状を把握しました。また、業務の効率化、広告・宣伝に有効なIT活用ツールを調査し、経営者や支援者の視点で留意するべき点についてまとめました。（報告書第1章，第2章）

(3) アンケート調査を実施

埼玉県内を中心とした小規模商業・サービス事業者(69者)へのアンケートを行い、IT活用の実情や経営者が抱える課題を分析、考察しました。（報告書第3章）

(4) 企業支援を実施

埼玉県内を中心とした4事業者に対し、事業課題に応じたキャッシュレス決済やタブレットPOSやSNS、予約サイトといったツールの導入支援を行いました。さらに各事例の課題に応じた、HPやSNSの運用方法、POSデータやGISデータの活用方法を提案し、IT利活用により継続的に生産性や利益の向上を実現する仕組みづくりを支援しました。（報告書第4章）

(5) 考察・IT利活用ポイントを提言

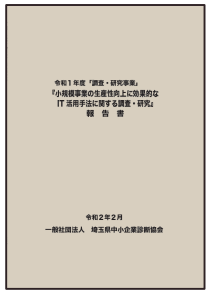
社会動向や企業支援の結果を踏まえ、IT利活用のポイントを整理し、中小企業診断士が支援活動で利用可能なポイントとしてまとめ、提言しました。（報告書第5章）

3. セミナーの開催

本調査研究事業の成果報告の場として、セミナーを実施しました。開催にあたっては、小規模事業者に「できるところから」ITを経営に取り入れる意欲をもってもらうこと、また、経営者ならびに各支援機関に向けて、中小企業診断士が、ITの専門家としても相談、活用できることを認知されることに力点を置いた企画としました。

セミナーには中小企業経営者・支援機関・診断士など10名の参加者があり、基調講演、報告書の概要説明に熱心に耳を傾け、活発な質疑がありました。

セミナータイトル：小規模事業者のIT活用セミナー
「お店の声を分析して分かった “もうけを生むIT活用術”とは？」
日時：2020年2月22日（土）
14:00～16:00
場所：新都心ビジネス交流プラザ



内容：
①基調講演
講師：IT研究会 中川 健治 代表
『お店の利益が上がる最近のIT活用術』
②調査研究事業報告 ： IT研究会
・小規模商業/サービス事業者の現状と課題
・IT導入支援事例
・IT活用のポイントのご紹介

セミナーの様子

4. まとめ

調査・研究の結果、IT製品の価格低廉化、スマートフォンの普及、政府政策の後押しなどを受け、小規模事業者にもIT活用の動きが広まりつつあることが確認できました。一方で相談先がない、活用方法が分からないという事業者、経営者の声が多数寄せられました。本事業で支援した4事業者からは引き続き支援を要請されており、中小診断士が経営知識を備えたITの専門家として期待されていること、実績が得られた事例と考えています。

本事業の調査・研究報告書を、IT活用を検討される際に役立てて用いただけますと幸いです。

SAITAMA SMECA